



株主のみなさまへ

第123期 中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日



写真：LaLa arena TOKYO-BAY (千葉県)
発注者 株式会社TOKYO-BAYアリーナ

子どもたちに誇れるしごとを。



清水建設は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

株主のみなさまへ



取締役会長 宮本 洋一



取締役社長 井上 和幸

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申しあげます。

ここに、第123期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）上半期の、当社グループの業績及び事業活動の概況についてご報告申しあげます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ相変わリませぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2024年12月

INDEX

株主のみなさまへ	1	シミズのものづくり	7
社長メッセージ	2	サステナビリティ経営への取組み	9
業績ハイライト	3	当社グループの主なニュース	11
トピックス	5	主な完成工事	巻末

社長メッセージ

経営環境については、雇用・所得環境の改善の下、インバウンド需要の拡大等により景気の緩やかな回復が継続しておりますが、引き続き、中国経済の先行き懸念等による海外景気の下振れや、金融資本市場の変動等の状況を注視していく必要があります。

建設業界においては、公共投資の底堅い推移と民間設備投資の持ち直しの動きが見られましたが、供給面では、建設資材やエネルギー価格、労務費をはじめとする建設コストの上昇等による影響があり、厳しい経営環境が続いています。

こうした中、当社グループは高収益な事業体質への転換を喫緊の課題と捉え、徹底した施工管理と品質・工程管理を基本としながら、有望なマーケットの見極めと対応力強化、受注前審査の厳格化による採算性を重視した受注判断、生産プロセス改革による品質確保・原価改善等に取り組んでいます。併せて、それを支える人財の力、組織カルチャー、マネジメント力の強化に向けて、人財の成長を支援する仕組みづくりや人事施策の充実、従業員への成長機会・体験の提供により一層注力しているところです。

また、社是「論語と算盤」や経営理念、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」、中期経営計画〈2024-2026〉等の理念や方針を体現するうえで、当社グループは「超建設」という新たなマインドセットで取り組んでいます。「超建設」とは、当社の原点とも言える「誠実なものづくり」への思いや「顧客第一」の姿勢、「進取の精神」や「出入り大工の精神」など、世代を超えて受け継がれてきたDNAを再認識・再定義したうえで、お客様や社会の本質的なニーズを既存の事業や組織の枠を超えて探究し、建設をはじめとする事業を通じてお客様や社会の期待を超える価値を提供、その結果、お客様や社会とともに当社グループも成長していく、

という考え方です。「超建設」のマインドセットを旗印として、グループ一丸となって変革と挑戦に取り組むことを通じて、事業の収益力の更なる向上と事業ポートフォリオの充実を図ってまいります。

当社グループの総合力を活かすためには、データドリブン・DX（デジタルトランスフォーメーション）による経営・事業推進体制の強化も欠かせません。本年7月に策定・公表した「中期DX戦略〈2024-2026〉」は、DXによる機能連携の強化を志向しており、重点施策として「組織横断DX推進体制の構築」、「DX人財の育成」、「環境変化に強いIT基盤の整備」に取り組んでまいります。これらを通じて業務プロセス改革とデータを活かす経営を着実に進め、当社グループの事業競争力の強化を図り、ひいては持続可能な建設業の構築に貢献してまいりたいと考えています。

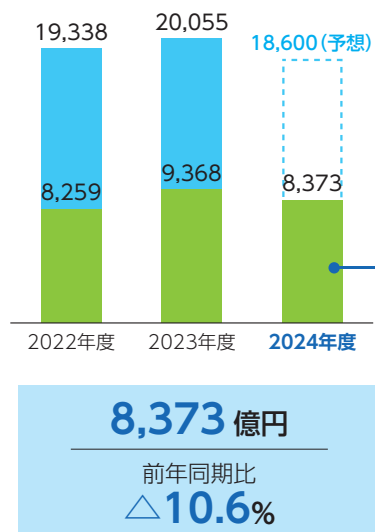
当社グループは、創業から220年余の歴史を礎とした伝統と技術を未来へつなぎ、新たな歴史を築き続けていく挑戦に取り組んでまいります。



業績ハイライト

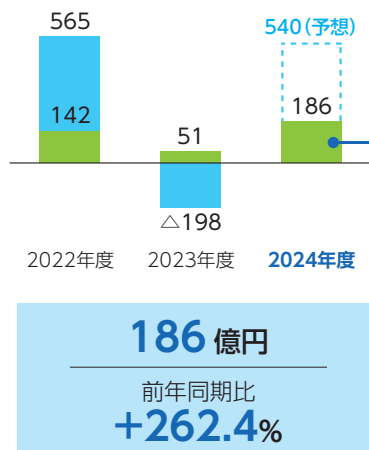
連結売上高

(億円)



連結経常利益

(億円)



連結当期純利益*

(億円)



■ 通期 ■ 上半期 ※ 連結損益計算書上の「親会社株主に帰属する当期純利益」

■ 当上半期の業績について

当社グループの当上半期の売上高は、完成工事高が減少したことから、前年同期に比べ10.6%減少し8,373億円となりました。

利益については、工事採算の改善に伴う完成工事総利益の増加などにより、経常利益は前年同期に比べ135億円増加し186億円となりました。当期純利益は、保有株式の売却に伴う固定資産売却益が前年同期に比べ大きく減少したことなどにより、55億円減少し106億円となりました。

■ 通期の業績見通し

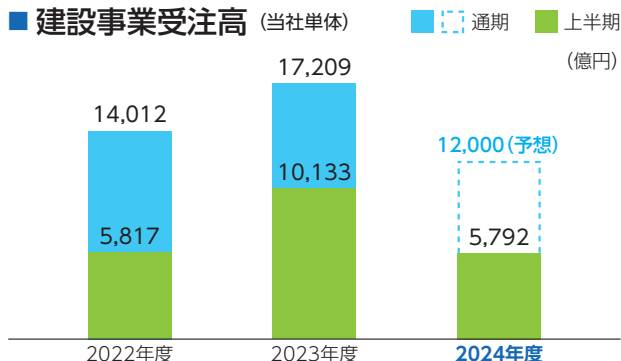
2024年度通期の連結業績は、工事採算の改善が順調に進んでいること、政策保有株式の売却活動をより積極的に推進することに伴い、期首の予想を見直しており、売上高は1兆8,600億円（期首予想比+600億円）、経常利益は540億円（期首予想比+130億円）、当期純利益は600億円（期首予想比+200億円）を見込んでおります。

以上の業績見通しを踏まえ、1株当たり中間配当金は、前回予想の11円50銭から6円増配の17円50銭とし、年間配当金についても、前回予想の23円から12円増配の35円とさせていただく予定であります。

■ 事業別情報 (連結)

	売上高		売上総利益	
	上半期	通期見通し	上半期	通期見通し
建設事業 国内建築事業・国内土木事業・海外建設事業	7,327 億円 前年同期比 $\triangle 13.0\%$	1兆6,200 億円 前期比 $\triangle 7.6\%$	597 億円 前年同期比 +58.7%	1,410 億円 前期比 +295.4%
開発事業等 不動産開発事業・エンジニアリング事業・ グリーンエネルギー開発事業 他	1,046 億円 前年同期比 +10.7%	2,400 億円 前期比 $\triangle 4.9\%$	144 億円 前年同期比 +0.7%	380 億円 前期比 $\triangle 29.4\%$

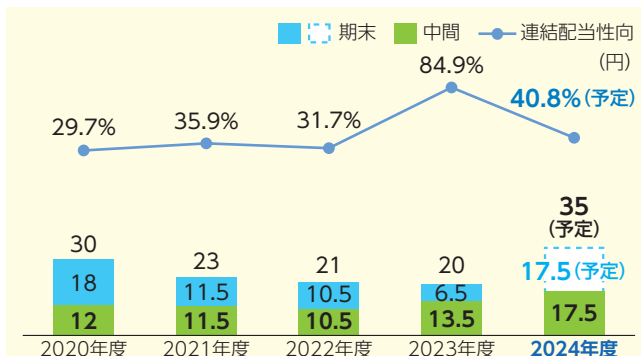
■ 建設事業受注高 (当社単体)



■ 主な受注工事

建築 工事	エースコック株式会社	エースコック株式会社 関東工場建設工事
	東京応化工業株式会社	東京応化工業郡山工場新製造棟建設工事
	旭化成エンジニアリング株式会社	延岡工場 2期建設工事
土木 工事	埼玉県	大久保浄水場高度浄水処理施設建設工事
	東日本高速道路株式会社	磐越自動車道 龍ヶ嶽トンネル工事

■ 1株当たり年間配当金の推移



■ 自己株式の取得及び消却について

当社は、資本効率の向上による更なる企業価値向上を図るため、2024年5月13日開催の取締役会において、100億円を上限とする自己株式の取得を決議し、9月6日までに100億円の市場買付を実施いたしました。また、2024年11月12日開催の取締役会において、さらに200億円を上限とする自己株式の取得を決議するとともに、2023年度に市場買付で取得した全ての自己株式(26,986,900株)を、2024年11月29日付で消却しました。なお、消却後の発行済株式総数は716,689,413株となります。

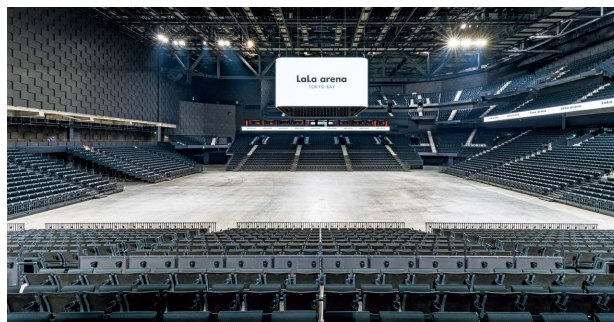
その他財務情報の詳細は
当社コーポレートサイトを
ご覧ください。



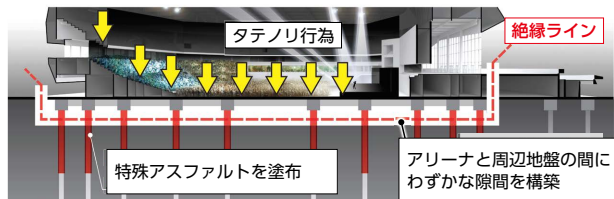
■ 日本初の民設民営大型多目的アリーナ LaLa arena TOKYO-BAYが完成

男子プロバスケットボールチームのホームアリーナ兼音楽コンサートなどの興行イベントが行える、収容客数1万人規模の多目的アリーナが2024年4月に竣工しました。

本アリーナには、コンサート時の周辺への振動影響を低減する当社の新技術「シミズ基礎地盤絶縁構法」が採用されています。本構法は、建物基礎と周辺地盤の間にわずかな隙間（絶縁ライン）を設けて、躯体を宙に浮かすことで振動伝搬を低減し、杭に特殊なアスファルトを塗布して杭からの地盤伝搬を低減するものです。当社は、開業後も引き続き効果検証を行い、本構法の更なる活用を推進していきます。



アリーナ内部



シミズ基礎地盤絶縁構法

■ 大本山永平寺の文化財19棟をデジタル技術で大解剖

曹洞宗大本山永平寺（福井県吉田郡）と共同で、永平寺伽藍内の重要文化財19棟について、デジタルツイン^{*}を製作しました。国内には、図面類が十分に整備されていない歴史的建造物が数多く存在すると言われております。デジタルツインの製作により、万が一の災害や火災等に備え、建造物を確実に後世に残すことが可能になります。歴史的建造物のありのままの姿を後世に残すことは大手建設会社としての社会的責務であることから、当社は、デジタル技術を用いた建造物の保存を各方面に提案していく考えです。

^{*}デジタルツイン

現実空間の対象物の情報を精緻にデジタル化して、サイバー空間内に現実世界と対になるふたご（ツイン）を構築することを意味する。



仏殿の点群データ（外観と内部を同時に表示）
[永平寺・清水建設共同調査 測量協力T&I 3D]

■ 産官学民連携によるスマートシティの実現を目指し、九州大学箱崎キャンパス跡地開発プロジェクトに参画

当社は、住友商事株式会社を代表とするグループの1社として、九州大学箱崎キャンパス跡地の開発プロジェクトに参画します。本プロジェクトは「HAKOZAKI Green Innovation Campus」をコンセプトに掲げ、九州大学がこの地で築いてきたレガシーの継承、スマートサービスによる人生の質を高める新しいライフスタイルの創出、そして次世代通信IOWN[※]などの先端技術の研究開発拠点や新産業を創造・集積するフィールドの構築などに取り組みます。

社会やお客様の本質的なニーズ・課題の探究の成果に基づき、100年先を見据えた未来のまちづくりに挑戦し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

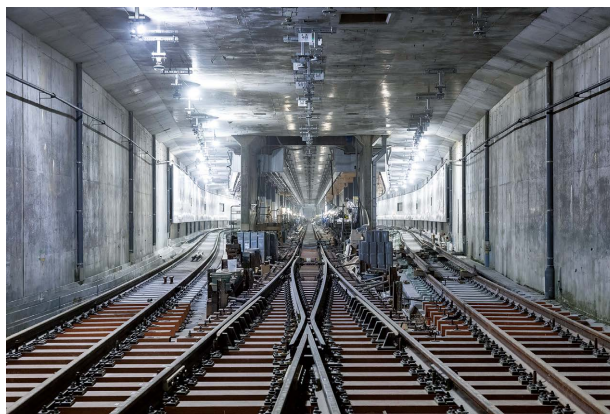


HAKOZAKI Green Innovation Campus 全景

※IOWN (Innovative Optical and Wireless Network)
省電力・低遅延・大容量に関する革新的な通信技術。

■ 相鉄・東急新横浜線 新横浜駅的全工事が完了

2023年3月に開業した相鉄・東急新横浜線の新駅となる新横浜駅。横浜環状2号線上に作業帯を設け、真下に駅舎を造るという大規模開削工事でしたが、着工から10年を経て2024年5月に道路復旧も含めてすべての作業が完了しました。当現場においては、図面をすべて3D化し、様々なクラウドシステムと連携することで遠隔現場巡回を実現。これにより、データ転記ミスなどのヒューマンエラーも減り、生産性を大幅に向上させました。これらの取組みは、革新的技術の活用による建設現場の生産性向上の取組みを表彰する、国土交通省の令和3年度「i-Construction大賞」優秀賞を受賞しました。



地下4階のトンネル部 (2022年3月時点)

■ シックスセンス 京都

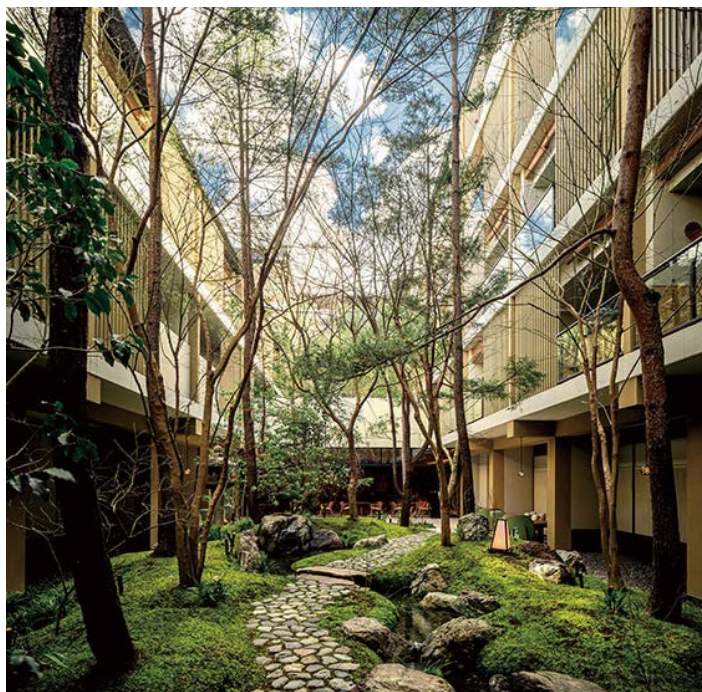
当社設計施工の、日本初上陸となるラグジュアリーブランドホテルが2024年4月に開業しました。ウェルビーイング、サステナビリティ、地元京都文化との調和を重視するお客様の思いから、縦ルーバーや寺院のような門構え、左官仕上の廊下など京都の文化を数多く取り入れました。加えて、敷地の高低差や、中庭・客室の配置を工夫し、ラグジュアリーホテルならではの快適さとプライバシー保護の両立を実現しました。当ホテルは、憩いの場・国内外へ日本の伝統文化を発信する場として多くの方々に利用されることが期待されています。

工事概要

所在地：京都市東山区妙法院
前側町431

発注者：東山閣

設計・監理：当社



京の生活文化の特徴である庭を囲む配棟



美しい中庭を望めるオールデイダイニング



東大路通側の外観全景

お客様から



リセス・マネジメント
開発事業本部 開発業務部
シニアヴァイスプレジデント
山崎 康弘様

ゴールまでの険しい道のりに寄り添ってもらった

当社が、御社と初めて協働したプロジェクトです。世界中で愛されているブランドのイメージを担保したホテル仕様を決定するため、多くの関係者と試行錯誤し、議論を尽くしました。実施した仕様変更は300件以上、ご用意いただいた材料などの

サンプルは1000個を超える状況の中、御社にはゴールまでの険しい道のりに粘り強く寄り添っていただきました。竣工後、ブランドオーナーから「世界のシックスセンスの中でも大変良い出来栄え」との言葉を頂き、非常にうれしく思っています。

環境、文化、風土を感じる宿泊体験を目指して

ホテルのブランドコンセプト実現のため、計画段階からさまざまな国籍のコンサルチームと議論を交わし、お互いの文化や考えを理解し合いながらデザインをまとめました。工事では現場と一体になって現寸モックアップや仕上サンプルの試作を繰り返し、細かな設備の納まりや造作をつくり込みました。本建物は、省エネの工夫を積みあげ、環境・省エネについての認証であるZEB OrientedとLEED silverを取得しました。



設計担当者
設計本部 商業・
宿泊施設設計部 設計長
末森 憲義

パズルのような施工計画を完遂

建物は東西に長い口の字型で、長辺の長さが約100m、高低差約6mの傾斜地にあり、道路に面しているのは東大路通に接する東側の短辺のみでした。そこで、中央部の中庭部分に仮設栈橋を構築し、資機材の搬出入路として使用しながら、奥の西側から施工。搬出入路の確保のため、設計者と相談し、建物の最東部の柱を最後に施工できる構造とするなど、パズルのように綿密な計画の下で工事を進めました。特殊な意匠で難易度の高い工事を、非常に良いチームワークで完遂することができ、感無量です。



工事長
生産推進部長
加藤 慎太郎

立場の違う人たちの思いを汲んで工程に反映

ゲストエリアの内装工事を担当しました。全81室の客室は、部屋のタイプごとにデザインや仕様が異なるため、膨大な工程・工種になりました。また、1階ロビーは、中庭の造園工事を行うための唯一の動線でもあったため、ロビーの仕上工事と造園工事用重機の搬出入との作業調整に非常に苦労しました。工事に関わるそれぞれの立場の人の思いを汲んだ上で、自分の主張を工程に反映させる重要性を実感し、大きな学びになりました。



施工担当者
朱 賢竣

サステナビリティ経営への取組み

気候変動や人権問題など、グローバルな社会課題が顕在化・深刻化している中で、企業が長期的に成長していくためには、サステナビリティに配慮した経営を行うことが不可欠です。

当社は、中期経営計画〈2024-2026〉で掲げるサステナビリティ経営を推進し、社会的責任を遂行するとともに事業機会を探求していきます。

サステナビリティ推進体制

当社では、「サステナビリティ委員会（委員長：社長）」を設置し、当社グループのサステナビリティに関する方針と重点施策並びにサステナビリティに関する情報開示の審議・決定を行っています。特に重要な事項については、取締役会に報告を行い、監督を受けるガバナンス体制を構築しています。

サステナビリティ委員会の下部組織に「環境部会」「社会部会」を設置し、関連する機能別部門・部署に対して指示または報告を受ける体制も整えています。

2024年度上期の
主な審議・報告事項

- ・マテリアリティの改訂
- ・TNFD提言に基づく自然関連財務情報開示
- ・TCFD提言に基づく気候関連財務情報開示
- ・エンゲージメントスコア
- ・健康経営推進計画策定
- ・DE&I施策（女性活躍推進、障がい者雇用）

TNFD提言に基づく自然関連財務情報の開示

当社は、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の理念に賛同し、本年6月からTNFD提言に基づく自然関連財務情報を開示しています。当社事業のバリューチェーンにおける自然への依存と影響を分析し、重要課題を特定しています。また、シナリオ分析により自然関連のリスクと機会の評価を行い、ネイチャーポジティブ実現に向けた独自の戦略を推進しています。今後もTNFD提言を環境経営の推進に役立てていき、グループ環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」の達成を目指していきます。



取締役会

報告 ↑ ↓ 監督

サステナビリティ委員会

- 委員長：社長
- 副委員長：SDGs・ESG担当役員
- 委員：安全環境担当役員、各事業担当役員 他
- テーマ：シミズグループのサステナビリティに関する方針と重点施策の審議・決定
サステナビリティに関する情報開示の審議・決定
- 開催頻度：年6回程度
- 事務局：SDGs・ESG推進部、経営企画部

提案・報告 ↑ ↓ 指示

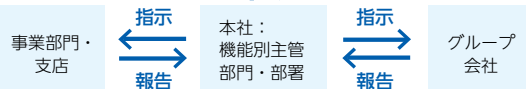
環境部会

テーマ
脱炭素、資源循環、
自然共生の方針・施策・
情報開示、環境教育など

社会部会

テーマ
人権、人的資本、DE&I、
働きがい、労働環境改善、
サプライチェーン、
社会貢献活動など

報告 ↑ ↓ 指示



「Hydro Q-BiC Lite」を開発・製品化

本年6月、水素サプライチェーンの「つくる」から「つかう」までの設備一式をコンテナ内に収納した省スペース型の水素エネルギー利用システム「Hydro Q-BiC Lite」を開発、製品化しました。「Hydro Q-BiC Lite」は、従来の「Hydro Q-BiC」と同様に、水素をコンパクトかつ安全に貯蔵できる水素吸蔵合金タンクを利用しています。加えて、コンテナ設置スペースと最低限の基礎・設備工事のみで設置が可能となっており、再生可能エネルギーの普及とさらなる利用拡大に寄与することが期待されています。



「Hydro Q-BiC Lite」(パッケージタイプ)

「ハツ堀のしみず谷津」が令和6年度前期「自然共生サイト」に認定

本年9月、当社を代表とする産官学民6団体で取り組んでいる湿地再生プロジェクト「ハツ堀のしみず谷津」が、環境省が定める「自然共生サイト^{※1}」として認定されました。この取り組みは、2021年6月より千葉県富里市の荒廃した谷津田^{※2}を湿地グリーンインフラとして再生しています。「自然共生サイト」への認定は、技術研究所ビオトープ「再生の杜」に続き、2例目となります。当社は、引き続き生物多様性の保全や回復に取り組み、自然共生社会の実現に貢献していきます。

※1 自然共生サイト
民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域。認定区域は国際データベースに登録される。

※2 谷津田
谷津(台地が侵食されてできた小さな谷地形)にある水田のこと。



月1回の再生活動の様子

「家族の日」の開催

当社従業員やその家族に対して、ワークライフバランスへの意識醸成や、家族のつながりを再確認してもらうきっかけづくりを目的として、2009年から「家族の日」を開催しています。今年度は8月9日に実施し、伝統建築について学ぶ鬼瓦づくりや、パラ・デフアスリートによる競技用の車いす体験会を実施するなど、様々なイベントが催されました。経営陣も会場を訪れて従業員やその家族と交流するなど、参加者に笑顔が溢れる一日となり、従業員のエンゲージメント向上に繋がる取組みとなっています。



社長との名刺交換体験

当社グループの主なニュース

タイトルをクリックいただき、参照リンク先からご覧ください。

■ 事業活動

- 首里城正殿復元整備工事で工匠式を挙行
～古式に倣い宮大工が正殿の悠久の安泰を祈念～
- 米国内でPFAS実汚染土壌の浄化試験に成功
～当社独自の土壌洗浄技術でPFAS除去率99%を達成～
- ホタテの廃棄貝殻からできたブルーカーボンテトラポッド
「HOTATETRAPOD (ホタテトラポッド)」を発表
- 国内最大の陸上風力発電所で国内最大のタワークレーンが稼働
～S-Movable Towercraneが4.3MW風車を順調に施工～

■ SDGs・ESG

- 視覚障がい者向け自律型誘導ロボット「AIスーツケース」
大阪・関西万博での実証実験を実施
万博特別モデルでの運用を検証
- 環境配慮型アスファルト混合物「バイオ炭アスコン」を製品化
～アスファルト舗装に炭素を貯留し、カーボンニュートラルを実現～
- 超高層ビルの解体現場から排出される廃板ガラスを再資源化
～“壊して捨てずに、取り出して再生”するマテリアルリサイクルを実現～

■ DX

- Cコンシェルジュで施工管理業務を標準化・デジタル化
～施工管理業務のノウハウを凝縮したハブが始動～
- 中期DX戦略〈2024–2026〉を策定
～DX人材の育成、データ利活用基盤の整備に着手～

■ グループ経営

- 国内最高の垂直搬送能力を備えた工事用エレベータを開発・実用化
～国内最大・最速、可変速制御を実現～
- タイ国で高速周回路工事を受注（日本道路）

■ その他

- 作業用ユニフォームを全面リニューアル
～新しい時代を見据え、働きやすい職場環境の実現を図る～
- 名古屋シミズ富国生命ビルが竣工・開業
- 旧渋沢邸のバーチャルツアー開始について（お知らせ）

おすすめコンテンツ

■ コーポレートサイト（特設サイト）

- 温故創新の森 NOVARE
- シミズの土木
- シミズのエンジニアリング
- シミズのDX
- 清水建設江東ブルーシャークス



■ 当社のSNS（公式サイト）

- Instagram 現場図鑑
- X 清水建設株式会社【公式】
- YouTube 清水建設公式チャンネル
- Facebook シミズ・ドリーム



主な完成工事

左上：神宮前六丁目地区第一種市街地再開発事業 解体工事 新築工事（東京都）
発注者 神六再開発株式会社

左下：プロロジスパーク古河5プロジェクト（茨城県）
発注者 穂高特定目的会社

右上：所沢駅西口開発計画（埼玉県）
発注者 株式会社西武リアルティソリューションズ
SMFLみらいパートナーズ株式会社

右下：アサハン第3水力発電所Lot-1土建工事（インドネシア）
発注者 PT PLN（インドネシア 国有電力会社）

清水建設株式会社

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号

TEL 03-3561-1111（大代表）

<https://www.shimz.co.jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

